学 生 会 の 思 い 出

——第1回学生親睦会を振り返って——

木 曾 弘 隆*
Hirotaka KISO

Key Words: Society Activity, Student Association

私は日本機械学会に学生会員として昭和37年6月に入会し、12月に連絡員となった。

そのころは、関東地区19大学の参加による名称も関東地区学生会で、工場見学、卒業研究発表講演会、留学生を中心とする懇談会、学生欄記事の掲載などの活動をしていた。これら定常の活動に加えて「学生会の全国組織への推進」が当時、重要な課題であった。

昭和38年4月、この課題への具体的方法が検討され、まず全国の大学の機械工学科主任教授に学生会があること、その大学と学生会との連絡をとる連絡員を2名推薦してもらおう呼びかけをすることにした。同時に全国学生会員が一堂に会する機会をつくることが提案され、この企画を担当することになった。まず宿泊費が安く、30～50名ぐらいの参加者が一堂に会してミーティングできる施設という点からユースホステルの利用を考えた。時期としては、帰省、サークル活動の合宿、夏季実習などが終わって比較的参加しやすくなる8月の下旬を、台風の影響を心配しながら予定した。開催

地にいちばん悩まされた。名古屋地区をとも考えたが、担当する私自身土地に不案内で、新幹線はまだなく、下準備に行くにしても一仕事という時代であった。

最終的には静岡県伊東市にある伊東ユースホステルに場所を設定し、8月28～30日、第1回学生親睦会の参加者を募ったしだいである。

参加者は当時未加盟13校20名と、加盟7校11名の計20校31名であった。

親睦会とはいえ、その中心テーマは、現在関東地区で活動している学生会を全国的なものに拡大するにはどのような方法をとったらよいかであった。討議の結果、関西地区には関西支部をつくることを前提として関西地区の大学が集まって話し合いをもつことになった。また距離的に離れていて、各大学間が密接に連絡し難い大学については、全国を二つに分けて、関東・関西二つの支部をおき、その活動の延長に参加してもらうという意見も出された。これらの討議が契機となって翌39年東日本学生会・西日本学生会と展開していくことになり、今日の全国的組織に発展していることは喜ばしいかぎりである。

(原稿受付 昭和55年12月27日)

* 正員、東芝タンガロイ会社 (☎ 210 川崎市幸区塚越1-7)。

第18回全国学生親睦会を振り返って

種 村 康 成*
Yasunari TANEMURA

Key Words: Society Activity, National Get-together of Students, Nagoya, Industry, China

第18回全国学生親睦会は、昭和55年8月5～7日の2泊3日の日程で、東海学生会が幹事となり、名古屋市を起点として開催された。今回は地理的条件に恵まれたことと、参加費が安かったため、定員を超える57名の参加者があった。第1日め、名古屋駅に集合し、夕方懇談会が開かれた。最初、緊張ぎみの参加者も、自己紹介が終わるころには打ち解け、散会後は地元の実行委員を中心に、夜の名古屋の街へ出かけていった。

工場見学は、第1日めに三菱重工業名古屋航空機製作所大江工場、第2日めにトヨタ自動車工業と2日にかけて行った。航空機製作所では、巨大な機械群の中で、大形部品が精密に時間をかけて仕上げられていた。自動車工場は、徹底した無人化、省人化がなされたラインから、エンジン、車がつぎつぎと生産されていた。見学後には会社側との懇談会が開かれ、活発な質疑応答がなされた。対照的な二つの工場の見学は非常に興

味深く、自動化に伴う人間の役割の重要性が感じられた。続いて、伝統産業の陶磁器を展示した、愛知県陶磁資料館を見学した。瀬戸物についての映画も見せていただき、工場見学とは異なった趣を味わうことができた。好評であった。こうした行事をとおして意気投合した参加者が集まり、2日めの夜、盛大に懇親会が開かれた。教官を含めてグループにわかれ、芸を披露し、にぎやかに進行した。終了後も部屋にもどり、夜遅くまで二次会が続けられた。3日めの朝、反省会が開かれ、各自が感想や希望を述べあった。こうして、ほんのわずかの交流期間であったが、多くの収穫を得て、親睦会は終了した。

54年、55年と親睦会に参加しての収穫は、機械工学という学問をとおして、全国の学生会員と知り合えたことである。不安な気持ちで参加した人も、解散のときには、すばらしい、有意義な会であると述べている。こうした行事がもっと学生会員に浸透して、低学年の学生にも参加してもらい、より充実した全国学生親睦会が開かれることを期待する。

(原稿受付 昭和55年12月18日)

* 学生会員、名古屋工業大学 (☎ 466 名古屋市昭和区御器所町)。